

アニメーターになる方法 高校生編（※高校生編しかありません）

みなさんこんにちは、アニメーターの神村です。

きょうはアニメーターになりたい高校生のために「アニメーターになる方法」をお話ししましょう。

いちばん話しやすいように思ったので、ここでは高校生に向けたお話をします。高校生以外の方は適当につじつまを合わせて読んでください。

- 1) アニメーターに、いつなるか。
- 2) どういう手順で、アニメーターになるか。
- 3) アニメーターになるには、どんな能力が必要か。
- 4) 付録・新人アニメーターの生活

上記の3項目について順に説明していきますが、説明の前提として以下のふたつのことをお話ししておきましょう。

- ・アニメーターの仕事について。
- ・向き不向きについて。

ではまず

【アニメーターの仕事について】

基本的に絵描きです。絵で動きを描いていく仕事です。

労働時間は比較的長めで休日は少なめです。しかしこれはアニメーションでも実写でも映画産業ではあたりまえのことですし、もっとハードな職種はオフィスワークにもいくらでもあります。ですから社会一般の仕事とくらべて、べつにきびしくはありません。

机に向かっているだけですから、一日中動き回る仕事より体力的には楽な部類には入りません。

時給換算した賃金の低さもよく言われます。最初の3ヶ月ほどはがんばっても月3万円程度、2年目くらいまではよくて月10万円ほどなので、時給換算するとパートやアルバイト以下になります。

しかし今のところアニメーターには、仕事だけはたぶん豊富にあります。ですから、時給換算すると安くても労働時間を増やすことによって月収を上げることは可能です。

また技術の向上が見込めれば、多少の収入の向上が見込めます。アニメーターの場合、これにははっきりとした関連性があるって、技術があっても収入に結びつかない職種よりは恵まれています。

ただし安定した高収入や、中流といわれる階層の生活は、ほとんどの場合、望めません。食べていくのがやっとのアニメーターも多いのが実情であることは覚悟してください。

次に

【向き不向きについて】

アニメーターはとてもおもしろい仕事です。しかし、おもしろい仕事がどれもそうであるようにかなりめんどうな仕事でもあります。

ですから、めんどうなのも含めて、あるいはめんどうなのに気づかないくらい、アニメーションをおもしろいと思える人に向いています。

アニメーションが好きで、絵を描くのが好きだというのが基本になると思います。ここをはずすとまず無理です。耐えられません。

絵を描いていれば幸せ、というような人には悪くない仕事かもしれません。

とはいえ、アニメーターは絵描きの部分にプラスして、なにかの理屈や仕組みなどを山ほどおぼえなければならないので、学校の勉強ですべての科目が超絶きらい、という人にはたぶん向いていません。

どれかの科目のどこかの部分だけでも、おもしろい、と興味を持てる人のほうがいいです。

以上で前ふりを終わり、いよいよ本題に入ります。まずは前出の項目（1）から。

【1）アニメーターに、いつなるか】

このテキストは高校生向けなのですが、高校に入って3日目という高校生もいることでしょうから、義務教育後すぐアニメーターになる、ということの是非についてもすこしふれておきましょう。

・義務教育後（15歳で）すぐにアニメーターになってもいいか

99.9%のみなさんはやめておいてください。1000人のうち999人まで、ということですね。

自立心があって、基本的な生活能力をそれなりに仕込まれており、渋谷でキャッチセールスにつかまらない程度に知恵が働くしっかり者で、さらに群を抜く画力をそなえた方なら、15歳でアニメーターになってもいいでしょう。ここまで優秀な人は高校に行く必要、べつにないですすね。こういう人もまれにはいます。

でもやはり1000に1人ですからね。自分がその1人だと確信できない限りはやめておいたほうがいいです。とりあえず高校卒業（18歳になる）まで待ってください。

アニメーターもやはり仕事ですから、現代のほとんどの15歳にはむずかしいでしょう。

・高校卒業後にアニメーターになる。

これは、各アニメーション会社のアニメーター採用試験に受かったら行っていいです。試験に合格したのなら、18歳時点の画力で水準に達していると判断されたことになりま

す。

いますぐアニメーターになっても、なんとかやっていける可能性があるわけです。

・高校卒業後すぐにアニメーターにならないなら、どうするか

選択肢はおおまかに以下の5つです。

- ① 大学などの上級学校へ行く
- ② アニメーション専門学校へ行く
- ③ ほかの仕事に就く
- ④ フリーターになる
- ⑤ なにもしない。旅に出る、など

ひとつずつ考察していきましょう。

① 大学などの上級学校へ行く

いちばんのおすすめはこれです。入れそうな大学があって、経済的なものやそのほかの事情が許せば4年制大学へ行くのがもっとも有利な選択です。その際、芸術系の大学に限る必要はありません。

卒業してアニメーターになるのが22歳くらいです。ほどよく知恵もついてきて、ものおぼえもよい時期です。大学で4年間も勉強していたので頭の回転もよくなっています。その勢いでアニメーションをおぼえると早いです。

ほかにも4年制大学を選択する利点はたくさんありますが、とくに解説しません。みなさんもだいたいわかると思います。

② アニメーション専門学校へ行く

これも悪くない選択です。

ただし、アニメーターになるためだけにアニメーション専門学校に行く必要は、まったくないことをおぼえておいてください。新人アニメーターの半数程度はアニメーション専門学校へ行っていない人たちです。とくに大手の採用においては専門学校を出ているかどうかはまったく考慮されません。

アニメーション専門学校で得る知識は、仕事の現場にいれば1ヶ月でおぼえられます。

仕事に入ってから技術の習得には、専門学校に行ったか行かないかは無関係なんですね。

しかし、小さな制作プロダクションでは、アニメーション専門学校を出た新人しか採用しないところもあります。教える手間を省こうという、非常に残念な理由からです。

高校卒業時にアニメーター採用試験に受かった人は、そのままプロのアニメーターになったほうが専門学校へいくより圧倒的にうまくなれますが（比較にすらなりません）、個々人の事情もあり、18歳で仕事に就くことに不安があるなら専門学校へいくのもいいでしょう。

アニメーション専門学校の利用法はふたつあります。

ひとつは力の足りない人のための予備校として。

もうひとつは、アニメーション業界の情報が届かない地方出身者のための情報収集の場としてです。この2点には大いに利用価値があると思います。

誰でも入れて学費がそう高くないというのも魅力でしょうか。

ただし、アニメーション専門学校は各種学校です。学歴の足しにはまardenりませんので、将来アニメーターにならなかったときに、職業選択の幅を非常に狭めてしまうことになるのを覚悟しておく必要があります。

③ ほかの仕事に就く

諸般の事情でほかの仕事に就いた方は、機会を見ていつでもアニメーターに転職すればよろしい。いまの仕事と真剣に向き合えば、アニメーターになってからその経験が生かれますし、貯金ができるのもポイント高いですね。

④ フリーターになる

アニメーターになるという前提のもとですが、フリーターになるくらいならアニメーション専門学校へ行ってください。まだしもそのほうが有利です。

⑤ なにもしない。旅に出る、など

これはとくに考察しない。

では次に行きましょう。

・アニメーション学校や大学を出てアニメーターになる

アニメーターになれる人なら、この時点でどこからも採用されないということはまずありません。希望とちがう会社でも、とりあえずこの時点でアニメーターになっておいてください。

ここからの1年の差は大きいですから、大学を出てからアニメーション専門学校へ行くとか、専門学校を出たけれどしばらく働きたくないとかいうのは、時間の浪費にすぎないので要注意です。

とくに4年制大学を出てから専門学校に行くのはやめておいたほうがいいです。25歳をすぎると採用しない会社もありますし、おなじ程度の力量ならどこの会社も24歳の人ではなく22歳の方のほうを採用するであろうことをおぼえておいてください。

2歳若い方が2年長く働かされるし、22歳の方が2年たてばいまより確実にうまくなるはず、という理由です。

専門学校を出てからブランクのある人は「そのあいだ、なにしてたの？」とかならず聞かれることを覚悟しておいてください。働く気がないんじゃないか、という疑問をもたれるわけですね。

【2） どういう手順で、アニメーターになるか】

話はきわめて単純で、アニメーション制作会社やプロダクションの採用試験をかたっぱしから受けてください。

このとき忘れないでほしいのは、3社や4社、あるいは競争率の高いところをねらうと7、8社くらいの試験に落ちても気にしないこと。

ほんとに気にする必要ないですよ。50社受ければいいんです。

さて、アニメーション会社の採用試験についてですが、アニメーション専門学校生の場合にはひとつ注意しておくことがあります。多くの専門学校ではひとりに一時期、1社の試験しか受けさせません。それに落ちたら次の会社に応募可能という指導をします。順次生徒を割り振っていき、結果的に全体の就職率をあげるためのシステムです。

大手のアニメーション制作会社では、採用試験の時期がほぼ1、2ヶ月のあいだに集中しますので、このシステムでは大手アニメーション制作会社の試験は、1社しか受けられません。

大手各社の採用試験結果を見ると、ある社では書類選考落ちでもある社では採用という応募者もいます。そのときの会社のつごうにもよりますからね。

ですから、たくさんの大手会社を受けたいならアニメーション専門学校出身でないほうが有利です。

個人的には専門学校のこの「生徒順次割り振り方式」は、優秀な生徒にとっては不利な方式だと思います。ですから、たくさんの大手制作会社を受けたい方は、自分の判断で自由に受けてほしいと思います。

自分の将来がかかっていますから、学校に遠慮する理由はありません。

あなたが複数社に合格すれば、学校の宣伝にもなり、かえって褒められると思いますよ。

大手アニメーション制作会社の試験が終わって、そこに引っかけられなかったら、そのほかの希望プロダクションをかたっぱしからあたってください。

アニメーション専門学校の生徒や大学アニメ学科の学生なら情報は充分にあるはずですし、そうでないみなさんも、Webで遜色ない情報を得ることができます。

大手以外のプロダクションは、採用にも比較的小回りがききますので、試験日が終わっていても作品を見てくれることがあります。その作品がよい出来なら、特別に追加試験もしてくれるでしょう。あきらめないで連絡してみましょう。

みなさんの画力がアニメーターになる水準に達しているなら、これでどこかに引っかけられないということはありません。大丈夫です。

ところで、どこの会社を選んだらいいのかという問題がありますよね。高校生のみなさんや地方在住者はとくに。

その点を、おすすめ順に説明していきましょう。

・おすすめ—その1 大手制作会社

「制作会社」と呼ばれる会社は、じつはそれほど多くありません。制作会社というのは、

自分のところでテレビ局に企画を出して、すべての工程を自社でまかない、完成した作品をテレビ局へ納品する会社です。

テレビアニメーションを見ていると、テロップの最後に「製作」または「制作」(株東映アニメーション、とか、(株サンライズ、というように社名が出るのが制作会社です。だいたい大きな会社です。

また大きな会社はほとんど「日本動画協会」という業界団体に入っていますから、そのサイトを参考にしてください。

まずはこのような大手制作会社へ応募するのをおすすめします。

理由は次のとおり。

- ・アニメーション製作工程のすべてを勉強することができる。これはとても有利。
- ・いろんな職種の人の話を聞くことができる。
- ・優秀なアニメーターの描いた絵を大量に見ることができる。
- ・常に複数の作品を制作しているので幅広い勉強になる。
- ・待遇が比較的安定している。

- ・おすすめーその2 みなさんの好きな作品を担当した作画監督がいるプロダクション
作画監督というのは、その作品でのアニメーターのトップです。

Webなどで作品を調べると、作画監督や総作画監督の名前が出ています。アニメーターを検索するとそのアニメーターの所属プロダクション名が出ています。そこに応募します。

- ・おすすめーその3

あとはみなさんの好みや勤で勝負です。ちょっとくらいアバウトなさがしかたでも、とりあえずいちどそのプロダクションに出向いてみれば雰囲気はわかりますからね。

気に入ったところを選べばいいでしょう。

補足ですが、ある程度の規模の会社はすべて募集も応募も Web ベースです。

いまどきの大学生、高校生がインターネットを使いこなせないとは思えませんが、Web 以外でリクルート情報を得ることはできない時代です。

【3）アニメーターになるには、どんな能力が必要か】

アメリカに長編アニメーションを作っているウォルト・ディズニー(正式名称はちがう)というアニメーション会社があります。

そのアニメーター募集要項「ウォルト・ディズニー・フィーチャー・アニメーション・トラディショナル・ポートフォリオ・サブミッション・フォーム」というカタカナで書くところ長い名前書類ワンセットのなかに「アニメーターに応募する人は次の力量が求められる」という一枚があります。

(この書類はディズニー・フィーチャー手描きアニメーション最後の時期の書類です。フィーチャーでは、応募したいと言えばこの手の応募書類を送ってくれるとのことでした。応募したい方はアメリカに電話してみてください。ただし応募はできますがこの会社、合格ラインが異常に高く、日本の大手アニメーション会社の比じゃありません)

要求を言いつくしていると思いますので、だいたいのところを並べてみましょう。

アニメーターに応募する人は

- ・鉛筆で明確にかつ説得力のあるキャラクターが描けること。
- ・高度な線画能力を持つこと。
- ・動いている動物や人物の構造をマスターしていること。
- ・キャラクターの外見だけではなく、感情、状況をも絵で表現できること。
- ・動物と人物の解剖学的構造を理解していること。
- ・パースの理解も必須。
- ・絵画的構図、建築学的描写の能力があること。
- ・映画用語を理解していること。
- ・自然界や物理的な現象（雨、火、水など）の実体を理解し描写できること。
- ・旺盛な好奇心、探求心を持つこと。
- ・その他。

読んでいだけで疲れるでしょう（笑）

でも日本ではこれからアニメーターになろうとするみなさんに、こんな高望みは誰もしませんから安心してください。

面接をべつにすれば、みなさんが採用にあたって要求されるのはほとんど画力のみです。「明確にかつ説得力のある画力」などとは考えなくていいです。要は絵がうまければいいんですよ。

ですからアニメーターになりたいみなさんは絵をたくさん描いて、上手になっておいてください。解剖学的構造もパースもいずれ必要になりますけれども、日本のアニメーター新人教育は力の足りない人を採用して、仕事で徐々にキャリアアップさせていくシステムです。アニメーターになってから勉強してもまにあいます。

まず人物を描く画力。余裕と興味があれば、解剖学的構造やパースの基礎にさわっておくのも有効です。

以上。みなさんの健闘を祈ります。

4) 付録・新人アニメーターの生活

・アニメーターを取り巻く状況

本文で新人アニメーターの最初の3ヶ月ほどの賃金はがんばっても月3万円程度である

と紹介しました。

これは特殊な例ではなく「完全出来高（かんぜんできだか）」と呼ばれる雇用形態でアニメーターになった場合、多くの人がこうなります。どれほど画力があり才能に恵まれている人でも、いきなり「仕事で通用する絵」を要求されたらこうなります。

仮に1ヶ月の賃金が3万円だとすると、新人アニメーターはもはや職業として成り立っていないと言わざるをえません。なぜこんなことになってしまうのかといえば、仕事の内容に単価や制作予算がまったく見合っていないからです。動画の値段は最低でもいまの3倍になってよい。

社会一般的な初任給である高卒17万円、大卒22万円と比べてみると、どう考えても職種形態として異常です。いまの手描きアニメーションは「好きだから安くてもこの仕事がしたい」という若者たちを犠牲にして作られていると思います。

このようなことになっている原因はなんでしょうかと、ここで論ずるのは本書の趣旨から離れるのでやめておきますが、アニメーターになろうとするみなさんは、現実はどうである、ということを知った上で対策を練っておいてほしいと思います。

経済的な困窮は、対策なしには絶対に乗り越えないからです。せっかくアニメーターになろうと頑張っているみなさんにはよけいな苦勞をかけますが、それでもみなさんが夢をかなえられたらいいなと思います。

・アニメーターの雇用形態

アニメーターのほとんどは「完全出来高」と呼ばれる雇用形態で働いています。

（完全出来高はふつう「雇用」ではなく「請負（うけおい）契約」というのですが、就業形態はどう見ても「雇用」ですから言葉の使い方は気にせず読んでください。）

しかし、さすがに新人のときからそれは気の毒であろうというのと、それだとホントにまったく収入にならない場合があるので、多くの制作会社では新人に生活補助の固定給をつけています。

固定給の額は会社の規模に比例すると思ってくれていいです。

A社・15万円を6ヶ月間

B社・7万円を6ヶ月間

C社・5万円を6ヶ月間

D社・2万円を3ヶ月間

あるていど名前の知られた制作会社なら、たとえ3万でも固定給がプラスされる会社に入るようにしましょう。

名前の知られていない会社なのに、「新人アニメーター固定給15万円」という募集もあります。こういった場合、非常にづらい職場環境であることが多いです。かならずいちは会社を訪れて、実際に自分の目で感覚で、雰囲気を確認することをおすすめします。

・低賃金への対策

固定給をつけてくれる会社に入れなかった場合（つかない会社のほうが多いはず）最初の1年間はまず絶対に賃金だけで暮らしていくのは無理です。したがって、最初からそれを想定した対策を立てておく必要があります。

神村のおすすめは以下の2つです。

- 1・仕送りしてもらおう。
- 2・貯金をしておく。

身も蓋もないですな。申し訳ない。しかしこれしかないのですよ。

1と2の両方用意できれば安心です。

まず

- 1・仕送りしてもらおう

Q & A のページでおなじことを書いているのでそのまま持ってきました。以下です。

親は子供に「ちょっとくらい苦勞して、人間として成長してほしい」とは思っているが、ご飯食べるお金にも困って健康を害するほど苦勞してほしいとは思っていないはずなので、事情を説明して頼めば「あと一年学校にやるつもり」で仕送りをしてくれると思います。

就職したはずなのに仕送りが必要というのは、なかなかわかってもらえないと思いますが、最初の一年間ほどのアニメーターは、就職したのではなくほぼ見習いのようなものですから、十分な収入がないのがふつうですと説明し、いさぎよく親に頭をさげて仕送りを頼んでください。

うまく説明できなかつたら、ここを読んでもらいましょう。

次に

- 2・貯金をしておく

学校へ行っているうちにできるだけ貯金をしておきましょう。そんなヒマないよと思うかもしれませんが、仕事をするとわかりますけど、学校へ行っているうちが人生でいちばんヒマな時期なんです。

5万円でも10万円でも、持っているといないとではぜんぜんちがいますよ。力のある人でもやめていってしまう原因は生活費が続かないからです。あと半年耐えられれば、この人の能力ならやっつけていけるのになあ、と残念に思うことがよくあります。そんなことでやめていくなんてもったいないです。

【アニメーターになる方法 Ver.3.0】 2017年1月

【アニメーターになる方法 Ver.2.0】 2008年3月

【アニメーターになる方法 Ver.1.1】 2005年9月

©Kamimura Sachiko 2017

<http://animatorweb.jp> アニメーター Web